

事業群評価調書(平成28年度実施)

基本戦略名	5 時代を担う子どもを育む	事業群主管所属	こども政策局こども未来課
施策名	(7)「地域みんなで子どもを育み、家庭教育を支援する」体制づくり	課(室)長名	中野 嘉仁
事業群名	③ 家庭教育支援の充実	事業群関係課(室)	

1. 計画等概要

【事業群取組内容(総合計画に掲げる取組)】

《長崎県総合計画チャレンジ2020 本文》

保護者が子どもに対して、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身調和のとれた発達を図るよう家庭教育の支援を行います。

事業群指標	最終目標(H32)	基準値(H26)	実績(H27)	達成率	【進捗状況の分析】
ながさきファミリープログラムの実施数	500箇所	376箇所	499箇所	-	H26年3月にチラシを作成、配付したことにより、ながさきファミリープログラムの認知度が上がった。また、養成講座を開催しファシリテーターの数を増やしたことやフォローアップ研修会によりファシリテーターの資質の向上を図ったことで、PTAだけでなく、幼稚園や保育所、公民館等での講座や研修会でも活用されるようになり、実施数の増加につながった。 ※ながさきファミリープログラム:保護者の子育てに関する体験や悩み、また、それらの解決のためのアイデアを出し合う本県で策定したプログラム
事業群の進捗状況					-

【事業群取組内容(総合計画に掲げる取組)の分析】

《取組項目及び現状と課題》

i) 様々な世代や地域が協同し、子育て世代を支援する環境づくり

・シニア世代の中で、子育てに興味のある者に現代の子育て事情を伝え、求められる資質の向上を目指す研修を実施している。

ii) 保護者への学習機会や子育て情報の提供等、家庭教育の支援及び啓発

・「ながさきファミリープログラム」のファシリテーター及び家庭教育アドバイザーの養成講座と資質向上のための研修会を実施している。

・「ながさきファミリープログラム」は、開催数、参加者数の増加、活動の広がりによって、ファシリテーターの資質向上が必要である。

2. 27年度取組実績

取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(上段:実績、下段:計画、単位:千円)			事業対象	事業概要 事業内容 (事業の実施状況)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				事業の成果等	中核事業	
			H27実績	一般財源	人件費(参考)			指標	主な目標	H27目標	H27実績			達成率
取組項目 i	地域の子育てカアupp事業 こども未来課	H27-	3,796	0	8,056	シニア世代の子育てボランティアになりたい者	重要な子育て資源である元気なシニア世代の中で、子育てに興味のある者に現代の子育て事情を伝え、求められる資質の向上を目指す研修を実施した。	活動指標	拠点等に配置されたシニアの人数(人)	30	32	107%	8市町で59名のボランティアを育成し、6市町で32名のボランティアを配置することができた。	○
			6,835	0	6,452			成果指標	拠点におけるシニアの活動数(述べ数)	—	—	—		
取組項目 ii	家庭教育支援総合推進事業 こども未来課	H26-	1,282	946	8,056	「ながさきファミリープログラム」ファシリテーター認定者及び認定を希望する者	親育ち支援プログラム「ながさきファミリープログラム」を実施できるファシリテーターの養成や資質向上のための研修を行った。	活動指標	養成したファシリテーターの人数(人)	—	79	—	ながさきファミリープログラムの実施回数499回(前年比+23回)、参加者17,622名(前年比+2,999名)、養成したファシリテーター数79名(前年比+5名)とながさきファミリープログラムを実施するために必要なファシリテーターの数は、確保できた。	○
			1,220	823	8,065			成果指標	「ながさきファミリープログラム」参加者数	15,000	17,622	117%		
									18,000	—	—			

3. 検証及び問題点の抽出

<p>【課題解決に向けて取り組んだ事務事業の実績の検証】</p> <p>i) 様々な世代や地域が協同し、子育て世代を支援する環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニア世代の子育てボランティア養成講座を10市町で実施する予定だったが、希望のあった8市町で実施した。59名の認定者には、県より認定証及び名札、名刺を交付した。 ・希望がなかった13市町は、シニアボランティアが担う役割を婦人会等の別の団体がすでに担っていたり、高齢者団体等との連絡調整がつかなかったりしたため、実施できなかった。 ・ボランティアを養成した8市町のうち拠点等に配置したのは6市町で、2市町では、配置されなかった。配置されなかった2市町については、拠点等のニーズとボランティアの活動のタイミングが合わなかったかたり、養成時期が年度末であったため、活動する機会が確保できなかった。
<p>ii) 保護者への学習機会や子育て情報の提供等、家庭教育の支援及び啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ながさきファミリープログラム」は、各市町教育委員会の本事業への理解が進み、派遣等に協力を得られるようになった結果、ファシリテーター数が増え、21市町すべてにおいて、ながさきファミリープログラムを実施することができたが、市町によって、実施回数に開きが見られた。 ・平成23年度よりファシリテーターを養成し、ながさきファミリープログラムを実施してきたが、開催数、参加者数の増加、活動の広がりが見られるようになってきたことから、今後は、ファシリテーターの質の向上が課題である。



4. 29年度実施に向けた方向性

【問題点解決に向けた方向性】	【個別事務事業の見直し】			
	事務事業名	事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
<p>i) 様々な世代や地域が協同し、子育て世代を支援する環境づくり</p> <p>地域の子育て支援の充実のために、シニア世代の子育てボランティアの確保、質の向上に向けて、研修会を継続して実施する。また、ボランティアを養成したものの配置していない市町については、配置・活用に向けて連携する。</p>	<p>地域の子育てケアアップ事業</p>	<p>—</p>	<p>市町担当課に、先進的に取り組んでいる市町の取組例を紹介する、拠点以外の場で活用する機会を設けよう働きかけていくなどして、認定者の活動の場、機会を広げていく。また、今年度も養成講座を実施し、認定者を増やすとともに、すでに、認定されている者も再度講座を受講できるようにし、資質の向上を図る。</p>	<p>現状維持</p>
<p>ii) 保護者への学習機会や子育て情報の提供等、家庭教育の支援及び啓発</p> <p>家庭教育の支援及び啓発のさらなる充実のために、ながさきファミリープログラムの実施対象の拡大、内容の充実に向けて、周知を進め、研修会を継続して実施する。</p>	<p>家庭教育支援総合推進事業</p>	<p>—</p>	<p>平成27年度、実施数が少なかった市町や企業へ周知を進めることで、実施数を伸ばすとともに、すでにファシリテーターとして認定されている者へのフォローアップ研修会を継続して実施し、ファシリテーターの資質向上を図る。</p>	<p>現状維持</p>